



こんにちは！第33号は7月19日（月）に開催された、グローバル中間報告会の様子をお伝えします。報告会の第1部では、第一体育館にて全体会を開催し、地域協働・海外協働活動成果報告や3年生の代表生徒による地域活性化プロジェクト活動報告を行いました。第2部では、2年生がポスターセッションを、1、3年生はラウンドテーブルを通して探究活動に関して意見交換を行いました。ご来賓の方々のアドバイスを参考にして、今後の探究活動をより良いものにしていきたいと思います。

活動成果報告

3年 探究活動成果報告「地域活性化プロジェクト 口頭発表」

3年 渡邊 七美さん（坂井中出身）

3年 白井 七海さん（丸岡南中出身）

テーマ「昆虫を使った製品～昆虫で健康に～」

テーマ「食べ尽くそう丸岡の街～お得になくす食品ロス～」



〈内容〉高タンパク質な蚕のさなぎを粉末にし、クッキーや白玉団子を試作。昆虫食が広まることで食料不足が改善されることを提言。



〈内容〉食品ロスの軽減のため、地元商店で品物を買うともらえるスタンプを集めると割引券がもらえる取組みを考案し、3店舗での実施が実現。



この活動では、自ら積極的に行動し実行していくことの難しさや楽しさを学ぶことができました。また、多くの人とも出会うことができ、進路の視野を広げることができました。



最初は難しいと思っていたので、達成できた時は嬉しかったです。沢山の方に協力して頂いたので、その方々への恩返しの意味も込めこの活動がいいものになるよう、今後も頑張りたいです。

小中高連携による地域協働活動報告「丸岡城サミット」

3年 森 駿介さん（春江中出身）

「丸岡城を中心とした町づくり」に小学生中学生と丸高生がどのように取り組むべきかについて発表させていただきました。地域の将来を担っていく当事者としての自覚を持って、取り組んでいきたいと思っております。



学校設定科目による地域協働・海外協働活動報告

グローバルスタディ社会

3年 野口 昂之助さん（丸岡中出身）

社会科の視点からSDGsを学習し、世界の状況を知ることができてとても興味を持って学習しています。新しいことに挑戦しながら、これからの社会のあり方について学んでいきたいと思っております。



グローバルスタディ英語

2年 田中 悟史さん（丸岡中出身）

台湾の福誠高校との交流では、観光地やポップカルチャーなどを紹介し英語で意見を伝える難しさを学ぶことができました。丸岡高校は海外とも交流できる特色のある学校です。



1年ポスター制作

「丸岡の宝」を見つけるフィールドワークを行い、ポスター制作を行いました。また全校生徒による投票も実施しました。



作品の部

〈最優秀賞〉1年 新村 柊那さん（灯明寺中出身）

丸岡高校から徒歩30分くらいの場所にある豊原滝へ行きました。山道は意外ときつかったですが、色々な花や虫などの自然に出会えました。坂井市はたくさんきれいな場所があるので見に行ってみてください。



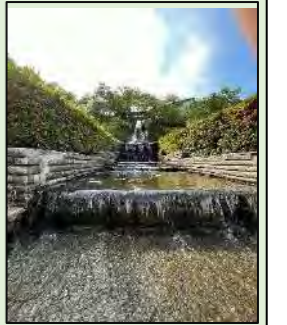
写真の部

〈最優秀賞〉1年 荒木 巧龍さん（丸岡中出身）

丸岡城周辺では、どんな写真が撮れるのだろうと、周辺をメインに活動をしていきました。噴水と青空を合わせた写真はきれいになるんじゃないかと思いついて撮った写真です。きれいに撮れてうれしかったです。



（右）荒木さんの作品



2年ポスターセッション



「坂井地区の地方創生のために必要な取り組み」について、自分たちはどう関わっていききたいか、SDGsの視点で考えたことを発表しました。

2年 長田 雅楽さん（南越中出身）

ネット上で調べた問題と解決策をそのまま伝えるのではなく、自分たちなりの解決策を具体的に提案する必要があると感じました。また、聞き手に伝わりやすくするにはどうすればいいか考えて話せるようにしていきたいです。



2年 稲村 有真さん（根上中〔石川県〕出身）

それぞれ違う視点や考えがあって、詳しく説明してくれてとても面白い発表だった。このことから、今からCF（総合的な探究の時間）の内容を深めていきたい。



2年 平野 潤さん（金津中出身）

自分達と課題が似ていても考え方は全く反対だったりして参考になりました。自分達の発表では、規模が大きすぎると言われたので、身近にできるものを探そうと思いました。



1, 3年ラウンドテーブル



3年生から1年生へ、これまでの探究活動について紹介したり、お互いに質問し合ったりし、学びを深めました。



（上）報告会の様子は新聞にも掲載されました



ご協力くださった関係者の方々、誠にありがとうございました。

◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。TEL 0776-66-0160（丸岡高校グローバル事務局）



こんにちは！第34号は、8月に開催されたインターハイや、丸高生が参加したさまざまな活動を紹介します。

インターハイ出場

北信越インターハイにサッカー部と新体操部が出場しました。皆様、応援ありがとうございました。



(左)新体操部 (上)サッカー部キャプテン横山潤成さんによる選手宣誓

サッカー部

2回戦 対 瀬戸内高校 1-1 (PK9-8)
3回戦 対 青森山田高校 0-8

新体操部

リボン 14位 尾谷ジェニファーアマラチ

インターハイに出場して

2年 尾谷 ジェニファー アマラチさん
(西東京市立田無第一中出身)



8月下旬に新潟で開催されたインターハイに出場させて頂きました。全国という大きな舞台で得た刺激を今後に生かし、地域の方々に恩返しができるよう、頑張っていきたいです。

(左) 3年野口昂之助さんがシステムエンジニアと協働し丸岡町の商店街で使えるクーポンを開発

(右) 地域協働部の生徒による総合案内の様子

インターハイおもてなし実行委員会



1年 豊本 千景さん (丸岡中出身)



インターハイを見に来る人達に対して、今どんな競技が行われているのか、今どこの高校同士が戦っているかなどを丁寧に案内しました。地域の方々や、中学生の皆さんも、今後機会があれば、ぜひインターハイを見に行ってみてください。

3年 渡邊 未空さん (灯明寺中出身)



放送関係者として参加させていただきました。たくさんの方の高校の人達の名前を中継で見ている皆さんに伝わるように、ゆっくり丁寧にやらせていただきました。全国規模の大会に関わることができ、貴重な体験でした。

夏季大会出場

バドミントン部 県民スポーツ祭 男子団体出場
剣道部 北信越ブロック予選 少年女子 団体第2位

北信越ブロック予選に出場して



3年 東 舞優さん (森田中出身)
私は入学したころ部の中の誰より失敗が多く、自分に自信がありませんでした。でも、先生や仲間、環境にも恵まれて技術面も精神面でも成長することができました。



地域との協働・探究活動など

<ふくい高校生議会>

3年生6名が参加し、福井県の再生可能エネルギーや食品ロス、環境負荷の少ない次世代自動車の普及に関する政策などについて質問しました。また、環境に関する提言書を県に提出しました。



3年 兀橋 斗羅さん (丸岡中出身)



福井県の環境問題に対する取り組みを調べて、そこからでてきた疑問を県会議員の方に質問した。福井県は日本海側の都道府県で一番恵まれていることが分かった。もっと地元に興味、関心を持つ若者が増えてほしいと思った。

<高校生ボランティアアワード2021>

ESS部、地域協働部、吹奏楽部、放送部の生徒が、オンラインで全国の高校生に活動報告をしました。



3年 上中 康彰さん (丸岡中出身)



明智光秀や新田義貞で有名な「称念寺」の紹介動画英語版作成と、福祉情報パンフレットの英語版作成の活動を発表しました。さだまさしさんや、テツ&トモさんが進行してくださり、とても楽しかったです。来年もこのような素晴らしい機会を、後輩たちに経験してほしいです。

3年 吉川 知歩さん (坂井中出身)



吹奏楽部で結成した「お城のまちの演奏隊」での活動を動画やポスターで地域の方だけでなく県外の方にも知ってもらうことができ良かったです。これからもっと多くの方々に興味を持っていただけると嬉しいです。

<ワールドユースミーティング2021>

ESS部がジェンダーをテーマに探究しその成果をオンラインで発表しました。

ESS部 金賞受賞



3年 白川 悠大さん (丸岡中出身)



ワールドユースミーティングでは、世界共通の問題を楽しく学ぶことができます。地域の方々、特に中学生の方々にはぜひこのような大会に参加し、世界についての学びを深めて頂きたいと思います。

<グローバル出前講座>



丸岡高校地域協働コーディネーターが、春江小学校の3,4年生178名を対象に出前講座を実施し、セネガルでの青年海外協力隊の活動紹介を行いました。丸岡高校では随時、世界とつながる出前講座の依頼を受け付けています。

<挨拶運動>

地域協働部の生徒がはっぴーすマンさんと一緒に、中学校で挨拶運動を行いました。



丸岡中学校



丸岡南中学校

◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。 TEL 0776-66-0160 (丸岡高校グローバル事務局)



こんにちは！第35号は、9月に開催された学校祭の様子を紹介します。

文化祭 9月2日（木）文化祭が行われました。



今年は雑誌の譲渡会のほかに、しおりづくりをしました。



学校祭クラス展示部門優勝

2年クラス展示



僕たちのテーマは達磨一家（鬼達磨）でした。より立体的にし、旗、鬼ヶ島をつくり、鬼感を出しました。丸岡高校はグローバル指定校で、地域の人との関わりを大事にし、協力し合って、人として成長できる学校だと思います。

<1年フィールドワーク発表>

総合的な探究の時間に地域で見つけた「丸岡の宝」について、クラスごとに発表を行いました。

1年 神原 大斗さん（陽明中出身）



キングスエイトダイナーという店のハンバーガーはとても大きく、好きなトッピングもできて、オリジナルのハンバーガーを食べることができます。こんな店があることを知らなかったけど今回の活動で知ることができました。

1年 宮嶋 凜太さん（藤島中出身）



丸岡の自然について調べ、丸岡には豊原滝という宝があることがわかりました。豊原滝は水がキレイで迫力のある滝です。丸岡にはこのような貴重な宝がたくさんあると今回の活動でわかりました。

1年 西田 陸晴さん（陽明中出身）



丸岡城は丸岡町のシンボルといっているくらい建造物だということを改めて実感しました。歴史や特徴を詳しく調べることができました。また、これから丸岡城周辺が整備されると聞き、どうなるのか楽しみです。いつか丸岡城が国宝になることを願っています。

1年 小倉 満喜さん（丸岡中出身）



「ゆりの里」と「丸岡バスターミナル」を調べてみて、両施設とも訪れたことはありましたが、まだ知らなかったことが多くありました。特に、ゆりの里が年中ライトアップしていることには驚きました。今まで知らなかった地域の施設の魅力を知ることができたので良かったと思っています。



体育祭

9月4日（土）二日の順延をへて、秋晴れの下体育祭が行われました。



学校祭応援部門優勝

3年 前川 遼介さん（丸岡南中出身）



応援団としての活動期間がコロナの影響で1週間短いため、最初は焦りがあった。しかし、みんなの一致団結によって、最後は最高の演技をすることができたので、協力さえできれば最高の物が作れることが分かった。

学校祭衣装部門優勝

3年 白井 七海さん（丸岡南中出身）



デザインによせて衣装を作るのはとても難しく、大変なことばかりでした。その分、完成したときの喜びはとても大きく、3年間で1番の思い出になりました。



学校祭マスゲーム部門優勝

2年 増田 琉那さん（丸岡中出身）



コロナの影響で練習時間は短かったですが、内容の濃い練習ができました。クラス全員で完成ができてすごくいい思い出になりました。

学校祭つくりもの部門優勝

3年 徳山 颯太さん（丸岡中出身）



立体構造物を取り付ける作業が一番苦労しました。しかし、みんなと協力してその困難を乗り越えられたときはとてもうれしかったです。審査で1位をとることができた達成感は何ものにも代え難いものになりました。

◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。TEL 0776-66-0160（丸岡高校グローバル事務局）



丸高グローバル通信 第36号

地域のみなさんへ
2021年11月5日発行
丸高HP



こんにちは！第36号は、9月から10月にかけて、丸高生が参加したさまざまな活動を紹介します。

オープンスクール



9月25日（土）オープンスクールが開催されました。参加して下さった中学生、保護者の皆さまありがとうございました。

来年度から新しくなる丸岡高校の制服を紹介しました。地域の中学生の皆さんからの意見も参考にしながらデザインを決定しました。



オープンスクール実行委員長を担当して

3年 山崎 ミチさん（丸岡中出身）



コロナで延期になったり、制限されることも多い中でしたが、丸岡高校の魅力が中学3年生の子達に伝わっていたら嬉しいです。来年度の丸岡高校はコースが新設されたり、制服も変わったりなど、今までとは全く違った新しい姿になると思います。そんな丸岡高校に、是非入学してください。

校外学習

10月15日（金）秋晴れの下、校外学習が行われました。



1年 田中 恭太さん
（市川市立第七中〔千葉県〕出身）



ゆめおーれ勝山で機織り体験をしました。蚕について学び、勝山の歴史や文化にも触れることができました。スキージャムでは活動を通してクラスの仲がより深まりました。ボーリングもとても楽しかったです。



2年 山田 健太さん
（谷口中〔神奈川県〕出身）



永平寺を参拝し、遠隔型自動走行車両やレンタサイクルなど初めての貴重な体験ができ、レクリエーションでは友達と楽しい時間を過ごした。次は修学旅行までメリハリをつけた学校生活を送りたいです。

3年 前田 拓摩さん（丸岡南中出身）



池田町で、クライミングウォールとつりをしました。高さ15mのスピードウォールは登れば登るほど恐怖感が増し、足が震えました。つりは自分はなかなか釣れませんでした。たくさん釣っている人もいて羨ましかったです。ニジマスの塩焼きを頂き、とてもおいしかったです。

地域との協働・探究活動など

<新体操部演技会>



新しくなった第1体育館で新体操部の演技会が行われました。全校生徒、教職員の前での堂々たる演技一同魅了されました。

<保健講話>

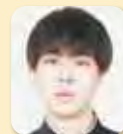


福井工業大学の武内先生による保健講話を実施しました。お互いがよりよい関係を築くために必要なことを学びました。

<グローバル講演会> 全国で高校魅力化プロジェクトを展開されている藤岡慎二先生の講演会を開催しました。今求められている「探究的な学び」の重要性や、その学びが自分たちにどのような利点があるのかを学びました。



1年 坂下 翔さん（丸岡中出身）



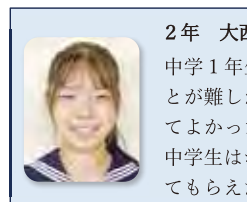
AIによって、人間がやる職業が変わっていくと共に、大学受験などの方針も変わっていくことが分かった。また探究学習で、自分達の地域をより良くしていくことができる可能性も感じた。これからの物事の視点を変えてみたりして、学力向上や大学受験、進路選択にも生かして行きたい。そして、社会人になっても探究する姿勢を忘れず生かしていきたい。

2年 磯邊 乃愛さん（丸岡中出身）



今後の社会の変化に対応していくことの大切さを学びました。知識だけでなく思考力が求められるようになっていく今、私は1つのことに対して、深く考えることがあまりなかったことで、疑問に思ったことにはしっかりと向き合って解決していきたいと思いました。またAIが進化しており、仕事もAIが行う中、人にしかできない思考は欠かせないものだと感じました。

<丸岡南中学校との協働学習> 2年生の生徒が丸岡南中学校を訪問し、「ふるさと地域学習（校外学習）」の事前学習に取り組む中学1年生に向けて、自分たちが昨年行った取材の体験談を話し、交流を深めました。



2年 大西 麗愛さん（丸岡南中出身）



中学1年生に分かりやすいように伝えることや質問に答えることが難しかったけど、たくさんメモをしてくれたり、話を聞いてよかったという感想を聞き、達成感がありました。これから中学生はポスターやCMを作るらしいので私達の話も参考にしてもらえたらうれしいです。



<丸高カレッジ特別編「これからの高校教育」～共に創る未来～>



10月1日に「まるおかバスターミナル交流センター」で開催されました。今回は令和4年度から丸岡高校に新設されるコースや福井県の高校魅力化の取り組みの紹介、高校生の探究学習などについて取り上げています。11月14日まで、さかいケーブルテレビで放送中です。

<丸岡城 行灯点灯式>

10月1日に丸岡城の行灯点灯式があり、本校を代表して書道部部長の2年 廣部 未来さん（丸岡中出身）が出席しました。坂井市内の高校生がこれまでの一筆啓上日本一短い手紙の入賞作品を毛筆で書き、行灯のデザインの一部となっています。160基の行灯が丸岡城天守までの道を照らしていて、丸岡城では新バージョンのプロジェクトマッピングも楽しめます。



◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。 ☎0776-66-0160（丸岡高校グローバル事務局）



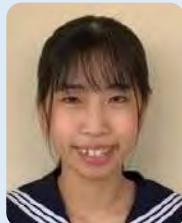
こんにちは！第37号は、10月から11月にかけて、丸高生が参加したさまざまな活動を紹介します。

<地域コーディネーターとの協議会>

11月15日、地域コーディネーターの方々を本校にお招きし、意見交換を行いました。今回は新たな試みとして後期生徒会役員も出席し、終始活発な議論が交わされました。

後期生徒会長の言葉

2年 麻畑 友良さん(丸岡南中出身)



学校のルールを見直し、1人1人が納得のいくものにしていきたいと考えています。みなさんの意見も取り入れ、もっとよりよい学校に変えていきます。生徒会長として、みんなをまとめ、生徒会全員でがんばります。

地域コーディネーターとの協議会に参加して

生徒会代表として、地域コーディネーターとの協議会に参加させていただきました。参加し、総合的な探究の授業を受けている私には、気づくことのできない地域の方々の意見を知ることができました。自信を持って行動していくことの大切さに気づくことができました。



協議会の様子



生徒会の活動内容も述べました
(左から橋本 紗花さん、麻畑 友良さん、山岸 愛実さん、大倉 汐月さん)

総合的な探究活動の時間

<地域活性化案の引継ぎ会> 2,3年



11月11日、地域活性化に向けた探究を行ってきた3年生が、2年生に成果や課題を引継ぎました。学年間の連携を図り、持続可能な活動を目指していきます。

<進路探究講座> 2年



11月4日、大学・短大、専門学校から講師をお招きし、各講座に分かれて模擬授業や各学校の説明を受けました。

<地域・文化歴史施設奉仕作業> 1年



10月26日、丸岡城周辺や国神社、高岳寺、本光院、称念寺などにおいて、奉仕作業を行いました。

<アズAS主催 地域の担い手づくりプログラム> 1年

11月11日、地元企業の方24名をお招きし、企業の魅力や企業人としての考え方などを学びました。地域課題について意見交換も行いました。



地域の担い手づくりプログラムに参加して
1年 津田 琉太郎さん(丸岡中出身)



僕が最も大切だと思ったことは、協力することです。職業につく中で、会社でも、職人でも、多くの人が関わってくると思います。そういった人たちとの関わりを大事にすることで、困難なことにも立ち向かえると思います。しかし協力といってもコミュニケーション力をつけずにはどうすることもできないので、中学生の皆さんも学生のうちに多くのことにチャレンジして、自分の中の世界を広げていってみることも大切だと思います。ぜひ苦手なことでも挑戦してみてください。



祝！サッカー部県大会優勝

サッカー選手権県大会全国大会に向けて
3年 山次 鴻史朗さん(丸岡南中出身)



僕たちは、第100回高校サッカー選手権大会に向けて、日々練習に取り組んでいます。自分達の代になってからずっと昨年の先輩達を越えることを目標に掲げてきました。全国BEST16の壁を越えるため1試合1試合、全力を尽くします。自分達がここまでたくさんお世話になった、丸岡の町、地域の方々に、全国で活躍する丸岡高校の姿を見せたいです。丸岡のために人生をかけて闘ってきます。

<高校生海外交流体験発表会>

11月12日、2年3組の代表生徒が台湾の福誠高校と行っているオンライン交流について発表しました。他校の生徒との質疑応答などを通して、お互いに交流を図る機会となりました。



海外交流体験発表を終えて 2年 西出 愛花さん(丸岡中出身)



1週間に1時間ある、グローバルスタディ英語という授業で台湾の生徒と交流した内容をオンラインで発表しました。他校で行っている国際交流の発表も聞きました。他校の発表をきいて、世界の人とつながる方法はたくさんあると改めて感じました。また、台湾以外の国の文化も知ることができて良かったです。

<タイ国とのオンライン交流機器贈呈式>



10月26日、丸岡ロータリークラブ様より、スピーカーやパソコン等の機器が贈呈されました。コロナ禍のためタイ国との交流は出来ておりませんが、3年生がグローバルスタディ社会の授業で調べたタイ国のSDGsについて、頂いた機器を活用して坂井高校の生徒に発表しました。

<坂井市民文化祭>

10月30日、31日、市民文化祭に文化部が出展しました。また吹奏楽部によるオープニング演奏も行われました。



吹奏楽部



美術・イラスト部

書道部

<三国南小学校での出前授業>

10月26日、オリジナルスイーツ作りに取り組む三国南小学校の5年生に向け、元地域協働部部長の吉岡さんが、自身の体験をクイズや実物を交えながら発表しました。

体験談を発表して 3年 吉岡 日菜多さん(坂井中出身)



部活動で自分が企画したスイーツを例に挙げて、販売方法や企画立案の仕方を分かりやすく説明しました。子どもたちが知らない地元の魅力を伝えることができ、自分の地域に少しでも誇りを持ってもらえたらと思います。高校生がいろんな活動をしているのはすごいと言ってもらえたので、丸高生にはもっと沢山の活動に取り組んでもらいたいと思います。



◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いします。TEL 0776-66-0160 (丸岡高校グローバル事務局)



こんにちは！第38号は、11月から12月にかけて、丸高生が参加したさまざまな活動を紹介します。

総合的な探究活動の時間

1年 <ようこそ先輩>

11月18日、地域で活躍している本校の卒業生をお招きし、仕事の内容や必要な知識などをお聞きし、先輩方と地域の課題について考えました。

1年 橋本 雪月さん（丸岡南中出身）



私はようこそ先輩に参加してヨガ療法士の方の講座を選択しました。お話を聞いて、思っていた仕事と違っておもしろかったし、とても勉強になりました。お話の中で、いろいろなヨガをして心を落ち着かせたり、呼吸の仕方を教えていただいたり、とても楽しい講座でした。私はこの活動を通して職業について真剣に考えることができました。



2年 <坂井市議会議員との意見交換会>

11月18日、地域活性化に向けて取り組む生徒の活動内容について坂井市議会議員の方と共有し、今後の活動について議員の方からアドバイスを頂きました。



<第41回近畿高等学校総合文化祭滋賀大会>

11月13日に放送部、11月20日に書道部の生徒が参加しました。

近畿高等学校総合文化祭に参加して

2年 柴田 航輝さん（丸岡南中出身）



丸岡高校はビデオメッセージ部門に参加しました。丸岡高校が取り組んでいるMプロジェクトを紹介できてよかったです。

また他県の作品もとても感性豊かなものばかりで、校内での活動とは違う貴重な体験となりました。



3年 東角 奈星さん（丸岡南中出身）



展示されていた作品を見て刺激を受け、もっと上手になりたいと思いました。また、交流活動では、初めて使うような筆で書いたり、初めての技法を学んだりしてとても有意義でした。今になって、挑戦をしてみても良かったなと思います。挑戦することは大切だと痛感しました。今回参加して本当に良かったです。



祝！全日本剣道選手権大会準優勝



本校教員の林田匡平先生が第69回全日本剣道選手権大会で準優勝しました。福井県勢で初の決勝進出です。1年生の担任として、剣道部顧問として本校の生徒を指導しながらの準優勝でした。おめでとうございます。

剣道部長へインタビュー 「生徒から見た林田先生はどんな先生ですか？」

剣道部 部長 2年 奥平 真央さん（丸岡中出身）

林田先生はある言葉を大切にしています。それは「懸待一致」という言葉です。懸待一致とは、攻めるときにも守る気持ちを、守るときにも攻める気持ちをもつという意味です。この言葉を胸に日々稽古に精進されています。林田先生はとても厳しいですが、常に僕たちのことを思って指導されています。僕たちだけでなく林田先生自身にも厳しいからこそとても活躍されているのだと思います。



ふるさと学習

1年 <福井県教育博物館訪問 ~地域の宝さがし 先人100人に学ぼう~>

11月2日、16日、福井県教育博物館を訪問し、特別展「わたし、先生になる！～鯖江女子師範学校での学び～」を見学しました。

教育博物館を訪れて 1年 清水 唯太さん（金津中出身）



今回のふるさと学習で、福井県の歴史について学びました。福井県の昔のことは、初めはあまり興味がなかったけれど、今回の学習を通して、くわしく知ることができました。自分が生まれる前の出来事など、知らないことがたくさんあり、昔の教科書など日常生活では見られないものも実物においてあり、実際にふれることができとてもいい経験ができました。



2年 <「きゃっチャリ」アプリで丸岡の観光スポット巡り>

11月2日、16日、坂井市が作成したアプリ「きゃっチャリ」を使用し、丸岡の観光名所などを実際に巡り、スタンプラリーをしました。また、実際に使ってみての感想や改善点を、高校生の視点でまとめ、坂井市に提案しました。



城小屋マルコ

本光院

きゃっチャリを体験して

2年 本田 侑基さん（金津中出身）



きゃっチャリプロジェクトでは、「きゃっチャリ」という坂井市の公式アプリを使って、坂井市内、主に丸岡町の様々な観光地をスタンプラリー形式で回りました。今まで知らなかった場所を今回の活動を通して知ることができたのでよかったです。みなさんにも、このアプリを活用して地元の魅力についてより知ってもらいたいと重いました。

この1年の省察と次年度への方向性

1. 今年度重点項目の取り組みと成果

(1) 教育活動全般を通じた探究的な学び(学年間の連携、対話、研修)

① 学年間交流の機会の確保

3年間を通じた探究的な学びのサイクルの共有と持続可能な活動を継続する目的で、生徒同士、教員同士で学年を越えて対話する機会を設けた。

＜グローバル教員研修会＞

4月21日、福井大学教職大学院の先生方が参観される中、教員研修会を開催した。2部構成で実施し、前半は、本校のスクールプランと「育てたい生徒像」について、および本年度のグローバル事業の運営体制について情報共有した。後半のM-PROJECT 学年打ち合わせでは、3年学年会がそれぞれ半分に分かれ、1学年と2学年の打ち合わせに加わって質問に応じた。どちらのテーブルでも積極的な意見が飛び交い、時折テーブルを越えて意見交換をする場面もあった。各学年の目標と課題を確認し、通常の学年会で引き続き議論することになった。



1・3学年と2・3学年に分かれて研修する様子

＜1・3年ラウンドテーブル＞

7月19日の中間報告会で、2年生の口頭発表と並行して開催した。約2年間、課題研究に取り組んできた3年生と、これから本格的なフィールドワークを始める1年生による意見交換会となった。

＜2・3年地域活性化案の引継ぎ会＞

11月11日の総合的な探究の時間に、3年生が2年生へM-PROJECTの引継ぎを行った。地域活性化に向けた探究学習の成果と課題、連携した地域の方々との連絡方法等を引き継いだ。



1・3年ラウンドテーブルの様子



2・3年地域活性化案の引継ぎ会

② 総合的な探究の時間から教科学習へ

固有の知識や技能を身に着け、その分野における思考力や問題解決能力を養う「教科学習」と、教科横断的で総合的な課題解決能力を養う「探究学習」は、相互補完的な役割を果たすものである。本校の場合、M-PROJECTでの実績を積み重ねた結果、「M-PROJECTの教科学習への応用」を推進するよう助言をいただくようになった。また本校生徒の多くが、「探究」＝「M-PROJECT」ととらえていることから、M-PROJECTと教科学習のつながりを認識し、自分の進路を見つめる研修会を企画した。

＜JKBの取り組み＞

グローバル組織内にあるJKB(授業力向上勉強会)は、毎年各教科の代表者で構成される組織である。令和4年度より新学習指導要領に基づいた新カリキュラムの運用が始まること、さらに本校では現在、新コース設置に向けての準備が進められていることから、今年度のJKBは、教科学習における

主体的な学習態度の評価方法を研究テーマの1つに設定した。

6月21日、福井大学大学院の遠藤貴広先生に講師を依頼し、拡大 JKB(教員研修会)を開催した。当日は遠藤先生より、本校で実践している地域との協働による探究活動の評価方法を各教科の評価に応用するという、本校に適した評価方法を提案していただいた。また、点数による評価ではなく文章による評価が、とりわけ主体的な学習態度の評価に適していることを説明していただいた。研修会の後半は、本校に適した評価方法と課題について、グループに分かれてワークショップを行った。

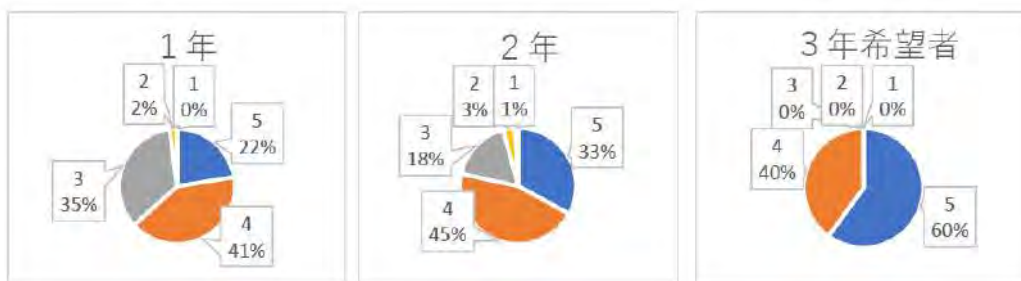
<グローバル研修会>

9月13日、本校の運営指導委員長である産業能率大学の藤岡慎二先生に講師を依頼し、生徒対象の研修会を開催した。対面開催を予定していたが、コロナ禍のためオンライン研修に変更し、「探究とは何か」、「なぜ探究学習が必要なのか」について考えた。以下は生徒対象のアンケート結果である。各項目について理解度を5段階で評価した。また評価の数値に関わらず、ほとんどの生徒がテーマに深い関心を寄せており、印象に残った言葉を引用したり自分の言葉で言い換えたりしながら、これからの学習活動に生かそうとしていた。

【グローバル研修会アンケート結果 (R3. 9. 13実施)】

回答者:1年98名、2年97名、3年希望者20名(1組4名、2組2名、3組4名、4組10名)

1. なぜ今、探究的な学びが必要なのか、また自分にどんな利点があるのかについて、理解できた。

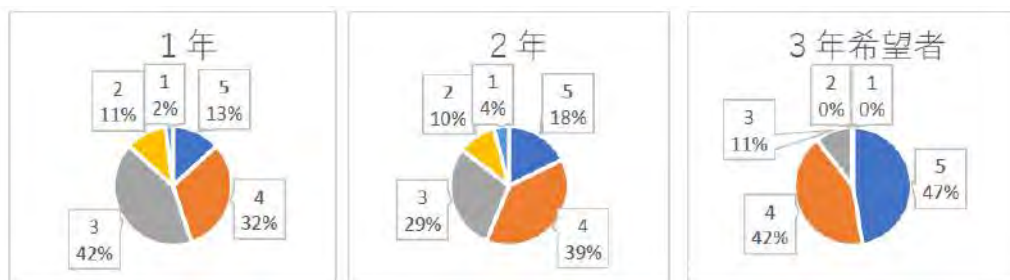


5段階による回答(5 よくできた 4 できた 3 普通 2 あまりできなかった 1 全くできなかった)

(生徒のコメント)

- ・自分自身でキャリアを選び、創る時代に変化していったから。(1年)
- ・自分の考えたことを定着させ、反省し、修正する力を身に着けるため。(1年)
- ・調べ学習だと必ず答えがあるので1つしか考えられないけど、探究学習は答えがないので、自分の考えが学力向上により影響を与える。(1年)

2. 地域や社会の課題について、生徒が自分と関連づけて考えることができた。

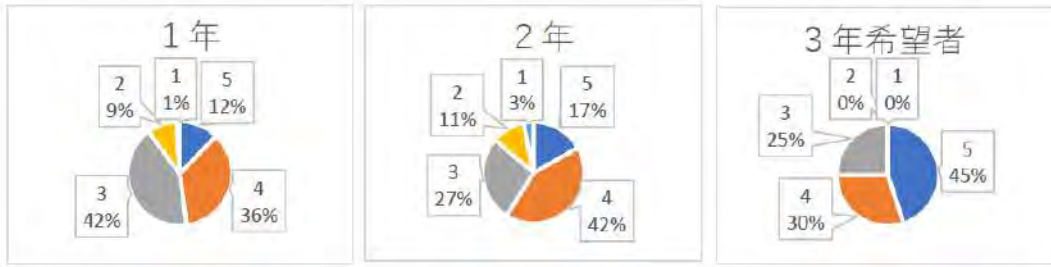


5段階による回答(5 よくできた 4 できた 3 普通 2 あまりできなかった 1 全くできなかった)

(生徒のコメント)

- ・難しく考えるのではなく、自分の知識からどう広げていこうか考えたい。(2年)
- ・すぐ身近にこれらの問いは存在している。やりたいことを突き詰めていく。(2年)
- ・自分たちの地域なので人任せにしないことが大切だと思った。(2年)
- ・今の社会について何が足りなくて何を改善すればいいのかわかる力をつける。(2年)
- ・自分が将来社会で働く時に何の職業が残っていて新しく何の職業があるのか考えた。(2年)

3. 課題解決に必要な手立て、学校や地域と連携しながら探究活動を進める見通しを持つことができた。

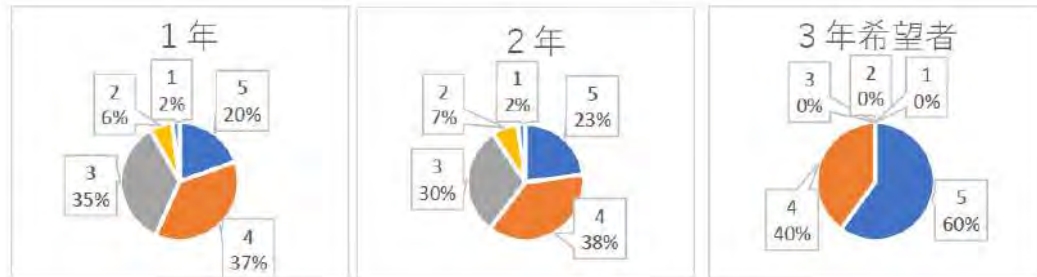


5段階による回答(5 よくできた 4 できた 3 普通 2 あまりできなかった 1 全くてできなかった)

(生徒のコメント)

- ・明確なテーマ、やりたい事を突き詰めることから始める。(1年)
- ・課題の設定、情報収集、整理分析、まとめ、振り返り、を意識できた。(1年)
- ・自分とは違うところを見てきた人たちとの連携で、課題解決を早めることができる。(1年)
- ・もっと具体的な疑問を持ちながら生活していきたい。(2年)
- ・色々な角度から物事を見るのが課題解決に必要なと思った。(2年)

4. 持続可能な活動にするためには何が必要か、理解することができた。



5段階による回答(5 よくできた 4 できた 3 普通 2 あまりできなかった 1 全くてできなかった)

(生徒のコメント)

- ・定期的に課題を見つけて、自分自身に問いかける。(1年)
- ・今後の状態について見通しを持ち、考えながら小さなことでも実践すること。(2年)
- ・一緒に協働する仲間が必要。(1年)
- ・固定的な考えではなく想像豊かに考え、頭を柔らかくして身の回りから考える。(2年)

<2年生 Aさんの感想>

今、自分はこの行ってみようと思う大学が全然見つかっていなくて、将来何かしたいのかも最近分からなくなってきているのですが、自分に対する「問い」が大切だと聞いてびっくりしました。正直、逃げていた部分もあったので、しっかり考えて、どこへ行って何がしたいのかなど自分の将来について向き合うことが大切だと思います。

<1年生 Bさんの感想>

自分はいつもテストで分からない問題があったら飛ばして次の問題を解いているけど、話を聞いて、一度自分の頭で考えていけば分かることもあると思いました。テストとかでも頭で一度考え、整理・分析しながら考えて問題を解いていけば、ミスもすくなくなると思うので、手持ちの知識を引き出して解いていこうと思いました。

生徒は、丸岡とは無関係の話題から、丸岡に置き換えて自分事として考え、自身の進路を見つめ直し、教科の授業に探究的な学びを応用しようとしている様子が分かる。

(2) 情報発信と継続的な協働関係の構築

① 情報発信計画の見直し

<丸高グローバル通信・出前講座・丸高カレッジ>

今年度は地域や地元中学生への魅力発信の充実を図り、「丸高グローバル通信」を地元中学3年生全員に配布した。また本校生徒全員に毎号配布し、学期に一度は発行日を保護者会当日に合わせて配布した。毎号に

本校生徒のインタビュー記事が掲載されることで、生徒は本校の取り組みや成果を再確認し、同級生や他学年の活動にも自然と目を向けるようになった。国際理解を扱う「出前講座」では、テーマに関連した本校の取り組み紹介の他、活動に携わった本校生徒が小中学生と直接交流することができた。地域の方々とは様々なテーマについて学び合う「丸高カレッジ」では、本校生徒が出演して地域の方々とともに学び合う姿を発信することができた。コロナ禍でも、生徒の顔が見える情報発信が実現した。

②コンソーシアムとの協働事業の推進

＜地域コーディネーターとの協議会＞

本校の地域コーディネーターは、地元市役所、地元企業、ロータリークラブ、学校関係の計4名で構成されている。昨年の第1回協議会では、地域と本校生徒が直接交流する機会が少ない点についてご指摘をいただいた。11月15日、後期生徒会執行部の生徒が参加し、「生徒×地域×学校」の三者による協議会を開催した。生徒会は、前期生徒会の取り組みを引き継ぎ、校則見直しの提案と、これまでの経過報告をした。全校生徒対象のアンケート結果から、服装や髪型に関する校則の見直しを提案し、生徒指導部と協議を始めることを説明した。地域の方々各自が自分たちの活動に耳を傾け、自分たち以上に本校の将来について考えてくださることを知り、生徒は今後もコーディネーターとの協議に意欲を見せた。

＜福井大学留学生と語る会＞



昨年度、学校設定科目「グローバルスタディ英語」と「グローバルスタディ社会」の連携が課題であった。教科間、クラス間での連携を強化し、さらにグローバルな学びとなるよう、12月14日、福井大学との協働による「福大留学生と語る会」を実施した。当日は20名近くの留学生や大学の先生方にお越しいただいた。グローバルスタディ英語クラスの使用言語は英語で、グローバルスタディ社会クラスでは英語または日本で交流した。英語クラスでは、日常生活や日本文化、地域の課題をSDGsに関連付けて話題提供し、社会クラスでは、身近に存在する日本や世界の課題を、SDGsに関連付けて話題提供し、それぞれのテーマで意見交換した。SDGsという共通のテーマを、グローバルな視点とローカルな視点で掘り下げる、2か年の継続的な学びの成果を発表する機会となった。

(3)学校の魅力化

①生徒の資質能力の向上

M-PROJECTをはじめとする学習活動で、「育成を目指す資質・能力」を明確化し、その育成に向かってカリキュラムマネジメントが行われた結果が、徐々に成果として表れている。活動の節目の振り返りから、生徒が培った資質能力が見えてくる。

いろいろな人の意見が聞けてよかった。自分と同じ意見もあったし、全く違う意見もあった。同じような意見でも、考え方や視点、だれを弱者と見るかによって、結論が違った。自分たちの年代と、60歳くらいの人との思いはちがう。だから地域の人たちとコミュニケーションをとることは大切だと思った。ここがダメと文句だけを言っても、地域は変わらない。声にあげて、自分たちの考えを伝えていかななくてはいけないと思った。(R1.2.13 地域活性化に関する意見交換会1年振り返りより)

色々な視点から考えることの大切さ、そのためには色々な人の話を聞くことの大切さ、そして自身が主体的に行動することの大切さに気付いた様子が見られる。

初めてのポスターセッションの時、面倒くさいながらも頑張ったポスターを発表して、それが評価されたのがすごく嬉しかったので、評価されることの喜びを知りました。それから、人に見てもらいたい、楽しんでもらいたいという気持ち、発表資料の作成意欲が湧いてきた。(R1.2. 1年 M-PROJECT の振り返りより)

他者から評価されることで、自己有用感が高まった様子が見られる。

自分と同じ年でもどんどん自分の考えを深め、自身を成長させている生徒がたくさんいた。先生に何かわれないう動けないというのはもう終わり。社会で活躍できる人材になるために、自分で考えて、自分で行動できるようになることが、自身の課題だと感じた。(R3.7.19 中間報告会3年振り返りより)

探究学習を通して、主体的な学びの必要性を認識している様子が見られる。

3年生のどのグループも、どうやったら自分の活動を次に引き継いでいけるか、持続可能な活動とは何かを考えていた。自分たちの活動も自分たちの中だけで終わらせず、どうやったら引き継いでいけるかを考えていた。(R3.7.19 中間報告会3年振り返りより)

持続可能な活動にすることの大切さに気づいている様子が見られる。

② 生徒の自己認識の向上から学校の魅力化へ

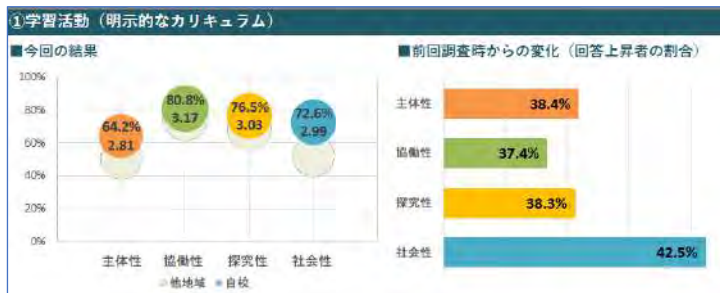


図 1 - ①（2021 年度高校魅力化評価システム総括表より）

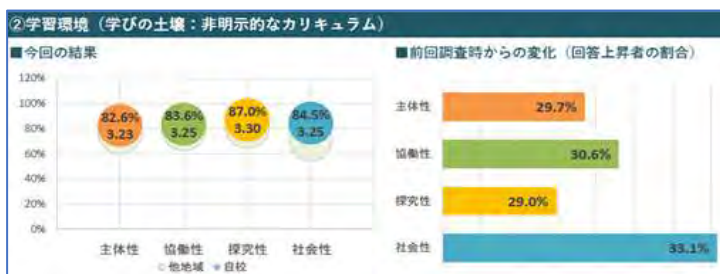


図 1 - ②

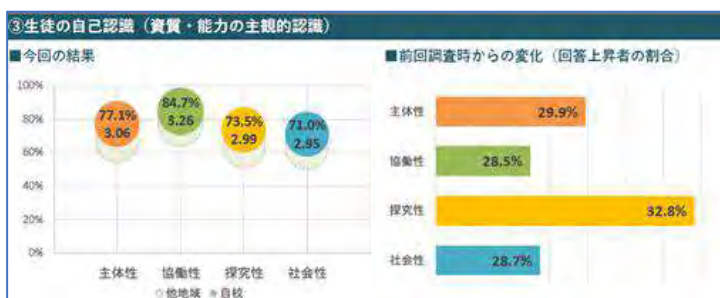


図 1 - ③

令和3年度9月に3回目の「高校魅力化評価システム」を実施した。グローバル事業を開始した令和元年度から3年間にわたる高校に対する満足度は、(R1年度)62.2% → (R2年度)76.3% → (R3年度)83.4% と着実に上昇した。

「挑戦する人に対して応援する雰囲気がある」と回答した生徒は92.2%で、前年同様「学習環境」に対する満足度が高いことが分かった。今年度はさらに「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる」と回答した生徒は94.1%に達し、他の人と協働することによって得られた多様な価値観や多様性に対する受容力が高まったことが分かる。

また図1-①～④より、4つの側面(①学習活動、②学習環境、③生徒の自己認識、④生徒の行動実績)において、『主体性』『協働性』『探究性』『社会性』の4領域全てで、他地域と同等、またはそれ以上という結果となった。

特に『協働性』は、全ての側面で高い数値を示し、今回「異なる意見や価値を尊重する」項目が最も高い数値を示したこととの相関が考えられる。横棒グラフは前



図1-④

回調査からの変化を示しており、①「学習活動」と②「学習環境」の側面では、『社会性』が前年度を大きく上回っている。①「学習活動」の具体的な質問項目では、「地域の課題の解決方法について考える」が上昇し、特に3年生は「日本や世界の課題の解決方法について考える」の項目が前年度より12.6ポイント上昇し、83.2%に達した。地域から日本、そして世界へと視野が広がったことは、社会の事象を自分と関わりある事柄として認識し理解しようとする姿勢の表れであると考えられる。②「学習環境」の具体的な質問項目では、「地域から大切にされている雰囲気を感じる」が88.1%、「興味を持ったことに対してすぐに橋渡ししてくれる大人がいる」が86.6%と高い数値を示した。地域の協働パートナーと連携した3年生はそれぞれ93.3%、94.1%という極めて高い数値であった。③「生徒の自己認識」(図1-③)においては、中でも『探究性』の領域が前回から最も上昇率が大きかった。

また下のグラフ(図2)より、4領域の全ての項目で、他地域を上回る結果となった。点線で囲んである項目は、いずれも前年度よりポイントが上昇した資質・能力である。今回特徴的であったのは、「持続可能意識」の数値が上昇した点である。3年生自身による活動の継続、そして自分たちの取り組みを1,2年生に引き継いでもらうことによる、持続可能意識が芽生えたことが分かる。

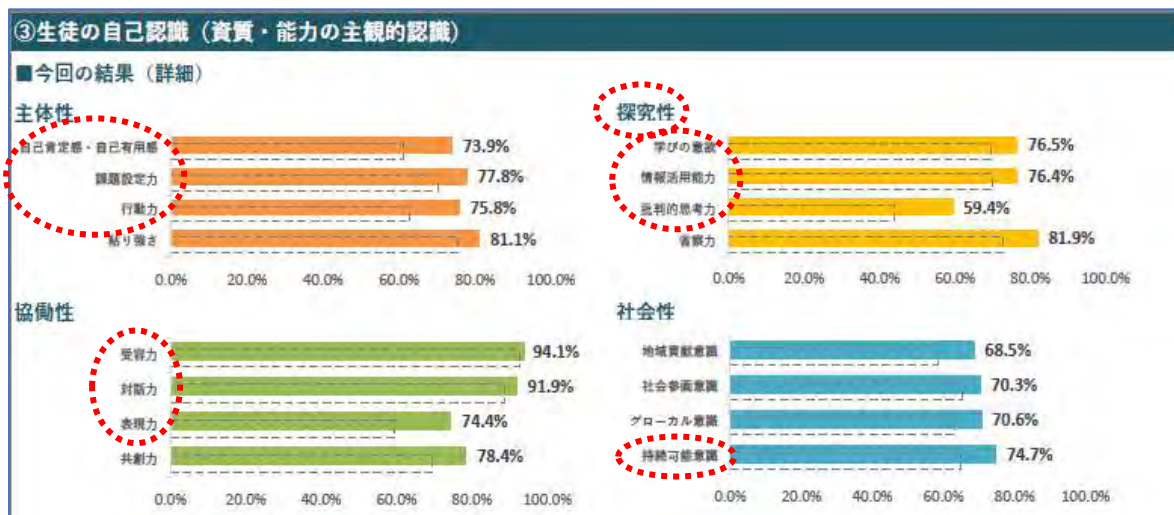


図2（2021年度高校魅力化評価システム総括表より）

また令和3年3月に坂井市内の高校2年生を対象に実施された、坂井市総合政策部企画政策課による調査「R2将来の居住地・まちづくりに関するアンケート」の集計結果(令和3年11月)で、【地域課題の解決方法を考えている】、【地域課題の解決に関わりたい】という項目について、「あてはまる」「どちらかというあてはまる」の割合の合計がそれぞれ、69.2%と71.7%という高い結果となった。地域内の高校間比較データ(図3)からも、本校生徒が地域課題に高い関心を抱いていることが分かる。

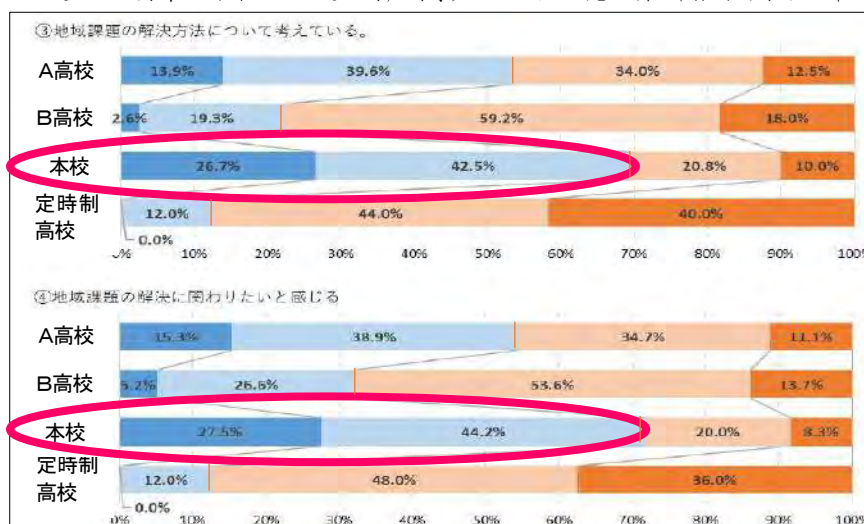


図3

以上の結果から、本校のカリキュラムマネジメントおよび AAR サイクル(Anticipation「見通し」-Action「行動」-Reflection「省察」)が学校生活のさまざまな場面で機能していること、日頃の地道な取り組みが生徒の意識や行動を少しずつ変えたことが、高校に対する満足度の上昇につながったと思われる。

(4) 学びの土壌から進路実現へ

① 学習環境の充実

今年度より運用開始した「みらい☆タイム」の活用は、生徒の主体的な学び、個別最適な学びの担保につながっている。探究学習だけでなく、特に2学期以降の3年生は、進学先用の志望理由書作成、担任との面談、教科担任への質問、面接・小論文個別指導の依頼等、進路関係の準備に有効利用している。この「みらい☆タイム」がうまく機能しているのは、生徒の主体的な学びの姿勢が養われている結果である。

② 個々の進路実現

近年、大学入試の多様化が進んでいる。面接試験では、想定される質問に対して予め用意してきた知識を問われることよりも、その場で発揮される思考力や判断力が評価されている。また事前準備できるプレゼンテーション形式では表現力が、その後の質疑応答では、知識だけでなく思考力や判断力が評価されている。大学が求める学生像が、実社会で求められる社会人像に近づいてきている。今年度の本校生徒の大学入試出願方式にも大きな変化が見られた。国公立大学の学校推薦型・総合選抜型入試の出願数が例年の1.8倍になった。M-PROJECT はじめ、授業や部活動での探究活動や、培った資質能力を発揮できる入試方式を利用する生徒数が大幅に増えた。また、一般入試を含め共通テスト利用の出願数も増加傾向にあり、本校生徒の意欲的な挑戦は、今この瞬間も続いている。

2. 次年度に向けて（学びの土壌づくり、ネットワークの構築、持続可能性）

学びの形態の多様化に適応することは、今後の学校教育の課題の1つである。それは GIGA ノイスクール構想によって生徒1人1台タブレットが支給されたことにも象徴されるような、対面とオンライン学習の併用を指すだけではない。本校生徒が求める「学びの土壌づくり」が今後の課題である。幸いにも本校はコンソーシアムに恵まれている。今後は、生徒がつながりたい相手、組織と連携するための発展的なネットワークを構築することが求められる。

今年度は他県のグローバル推進校が本校を訪れ、意見交換する機会をいただいた。またグローバル推進校が集う全国サミットでは、他県の推進校の実践報告を共有し、オンライン上でも推進校同士の交流が実現した。現在、他県のグローバル推進校との連携事業を検討中である。また本校が実践校として参画していた「OECD 日本イノベーション教育ネットワーク(ISN2.0)」は昨年度に終了したが、現在、地方創生探究学習を推進する学校ネットワークを基盤としたコンソーシアム構築の準備が進められており、福井大学の先生が北陸地区の主管となっている。今年度、本校生徒が大学の研究室と連携して昆虫食の研究を行った事例のように、生徒と地域のニーズに合わせて連携をマッチングすることを目的としたコンソーシアムの構築を目指しており、現在、本校の代表生徒数名がミーティングに参加している。このような産官学のネットワークを有効活用し、本校生徒の探究的な学び、そして次年度から始まる新コースの運営に活かしていきたいと考えている。

そして何よりも、本校と地域との持続可能なつながりを大切にすること、それを支える教員や学校組織が生徒の学びの良き伴走者となることが、次年度の目標である。

令和4年度からの新しい丸岡高校

1. 新コース設置への経緯

(1) 全国、県の方針を受けて

中教審答申「令和の日本型教育の構築を旨として」が出され、普通科において「学際的な学びに重点的に取り組む学科」「地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科」等を設置可能とする、とされた。逆に言えば、これまでの特色のない普通科は変革を余儀なくされているということでもある。県でも、県高等学校問題協議会の答申「今後の県立高等学校の魅力化の方針について」が出された。ここでは、1学年3学級以下でも「地元市町の密接な協力を得ながら各高校の魅力化・特色化をさらに進め、今後の社会の変化や地域の変化を踏まえた学科の在り方を検討しつつ、地域のためにできる限り存続させることが望ましい」とされ、生徒数減少の続く本校にも希望の光が見えた。同時に、「地域の普通科系高校の魅力化」が必須検討事項となり、独自の魅力化策を打ち出していく方向が示された。

(2) 本校の強みを生かした変革

本校は、3年間実践してきた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」でのカリキュラム等の蓄積、本事業によって構築された坂井市や地域の方々との関係性、といった強みを生かし、「世界や地域をフィールドに」「多様な人々と協働して」「課題解決を実現」という方向性に沿い、探究系のコース「(仮称)グローバル探究コース」の検討に入った。校内で検討を重ねた結果、最終的に、次に挙げる2コースを設置することが決定した。

2. 2つの新コース

(1) みらい共創コース

学校設定教科「みらい」1単位を集中履修とし、「世界を知る」「自分を知る」「自分を磨く」の3つの系統の多様なプログラムを通して、学習と探究の基礎力を培う。本事業で実践を重ねてきた「グローバルスタディ英語」「グローバルスタディ社会」を含め、特徴あるカリキュラムとなっている。

(2) スポーツ探究コース

本コースは、単にスポーツの技能を高めることを目的とするのではなく、「スポーツ」を通して科学的に考えたり、探究したりすることで、幅広い知識・技能を身につけていくものである。みらい共創コースと同様に、教科「みらい」を履修するほか、「スポーツ探究」を3年間で11単位配置し、スポーツを科学的に分析し、トレーニング理論や栄養学、病院実習なども取り入れた内容を学習する。

3. その他に新しくなること

(1) 「地域みらい留学」への参加

令和2年9月、地域の普通科系高校12校を対象にした「次世代型学校づくり推進校指定事業」の募集を受け、以前より情報収集をおこなっていた「地域みらい留学」への参画を目玉に応募した。残念ながら指定校4校には選定されなかったが、県教委や坂井市にも地道にアピールを続け、令和5年度からの全国募集に向けた「地域みらい留学」に参画できることとなった。

この制度は、主に都会の中学生が、特色のある地方の高校に3年間「留学」し、その地域でしかできない様々な学習活動や体験をするもので、現在全国で70校が参加している。福井県としては初の参加校として、全国に向けてPRを行うこととなる。

(2)新制服

地元中学生へのアンケートなどから、制服を新しくする機運が高まり、令和2年9月より新制服制定に向けて検討を開始した。在校生、保護者、教職員、中学生、同窓会などへのアンケートや意見聴取を重ね、令和3年10月に新制服が決定。スカート、スラックス、リボン、ネクタイを自由に組み合わせて着用することができ、新しいコースの出発にふさわしい制服となっている。

丸岡高校に新コース誕生

豊富な経験で未来に生きる力をつかめ！！

普通科
みらい共創コース

多様な人々との豊富な経験
地域や世界とつながる探究活動
協働して今と未来を創造する人材の育成

普通科
スポーツ探究コース

スポーツを
強化する・科学する
スポーツで
探究する・マネジメントする

★福井県立大学との連携と進学強化

- ・大学を訪問！早期の進路意識の高揚と適切な進路選択
- ・大学生との協働探究活動や、大学の先生による探究活動のアドバイス
- ★未来に役立つ学びを自ら選択する教科「みらい」
- ・市役所や企業でのインターンシップ
- ・大学のオープンキャンパスツアー

★ローカル、グローバルなテーマを海外生徒等と共に探究

★地域イベントの企画・運営を通じた実践的な学び

★北海道や長野など国内の連携高校への短期留学（遠隔高校を準備中）

★海外研修（タイ、台湾）

★充実した設備、機器

- ・最新の機器を用いてスポーツを科学的に分析、探究
- ★専門家から直接学ぶ機会の充実
- ・全国で例の少ないプロチームや美業団と連携した経営の学び
- ・全国から講師招聘
- ★福井医療大学との連携と進学強化
- ・専門の先生の講義受講
- ・病院見学や実習
- ★「スポーツ、健康」を通じた地域貢献や町おこし
- ★進路につながる確かな学力を習得

想定する進路

- ・4年制大学（多様な学部学科）
- ・公務員
- ・地元企業就職

想定する将来

- ・公務員（地方行政）
- ・各種企業
- ・教育関係
- ・国際関係
- ・起業家

想定する進路

- ・4年制大学（体育系、医療看護系、教育系、経営系他）
- ・専門学校（主に医療看護系）
- ・公務員
- ・地元企業就職

想定する将来

- ・スポーツ関係（インストラクター、トレーナー、プロや実業団選手、スポーツ関連企業、メンタルトレーナー、栄養士）
- ・医療看護関係（理学療法士、作業療法士、看護師）
- ・教育関係（教諭、養護教諭）

地域に
貢献

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(H31～R3)で培ったカリキュラムを進化

2つのコースに
共通する魅力

福井の
未来を
牽引

現在、県外出身生徒が22人も！
R5年度からは「地域みらい留学」制度で
全国募集開始 →全国に友達ができるよ！

変化する
社会に
対応

きめ細かい指導
教員1人当たりの生徒は11人
少人数授業と個人指導の充実

学校の外へ出て学ぶ！
バスや自転車、徒歩で地域探究活動へ

英語力アップ
・台湾福誠高級中学との姉妹提携
・福井大学、県立大学の留学生との交流

育てたい人材
多くの挑戦機会、発表機会 企画力、発信力、交渉力、プレゼン力がUP

制服が新しくなります
みなさんは一期生！

夢をかなえよう
多様な進路選択

卒業後の進路
一5年間の平均です

4年制大学	64%
短期大学	8%
医療看護系専門学校	7%
その他の専門学校	13%
就職	8%

県内全ての大学に進学
(国)福井大学
(公)福井県立大学
(公)敦賀市立看護大学
(私)仁愛大学、仁愛女子短大
(私)福井医療大学
(私)福井工業大学

県外 近隣国公立から、首都圏、近畿の有名私大まで
(国)金沢大学 (国)富山大学 (国)滋賀大学 (国)静岡大学
(国)京都教育大学 (公)滋賀県立大学 (公)公立小松大学
(公)都留文科大学 (公)長野県立大学 (公)福知山公立大学
(私)順天学大学 (私)福井大学 (私)日本体育大学
(私)東京理科大学 (私)立教大学 (私)駒沢大学
(私)宝井工業大学 (私)日本福祉大学 (私)名城大学
(私)中央大学 (私)同志社大学 (私)立命館大学
(私)京都産業大学 (私)近畿大学 (私)甲南大学 他

一般企業
・坂井工業(株)
・福井県銀行(未練連携)(株)
・(株)SHINDO 他

看護専門学校
・福井県立看護専門学校
・福井市医師会看護専門学校
・武生看護専門学校 他

公務員
・坂井市役所
・福井県警察
・福井県消防
・自衛隊 他

丸高は学びに向かう力を育みます
高校入学時の成績を大きく伸ばし
(例：1年7月県模試偏差値30台)
国公立大学に合格実績複数あり！

丸高は未来に必要な力を伸ばします
「高校能力化評価システム」(全国調査)より
各項目で丸岡高校生が他校を大きく上ります
(全国の他校との差)

主体性	+6.2%	協調性	+4.6%
探究性	+5.0%	社会性	+10.2%

特に大きな差の見られる個別項目
自己肯定感・自己有用感+12.1%
自分の意見を発表することが得意+11.5%
社会参画意識+12.3%

特伸びる丸高生

丸岡高校での豊富な経験！

タイスタディオツアー
台湾の高校生と連携授業
台湾研修
地域でのイベント企画運営
企業の方にプレゼン
県の発表
SDGsの先進企業訪問
体育館は改装した
鑑賞、ボランティア、発表
カードゲームでSDGsを学ぶ
地域協働部 そばろうち
地域でボランティア
サッカー選手権大会
夜8:30まで自習できます
丸高から撮影
世界大会代表の林田先生の指導
全日本選手権出場、本部先輩
日本高校選抜、田澤先輩、坂田先輩と小笠原

生徒会長 吉岡日菜多(坂井出身)

専業主婦メッセージ
丸岡高校で学んだことは地域と繋がる力です。地域の方々とボランティアに参加し、たくさんコミュニケーションを取りました。自分の半の世界が広がった良い経験でした。その経験を今の建築の勉強にも活かしています。
福井大学工学部 建築・都市環境工学科合格 津戸新太さん(丸岡南出身)

地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(グローバル型) 実践報告書 (2021)

発行日 2022年3月

発行所 福井県立丸岡高等学校

グローバル事業 広報・編集部

TEL 0776-66-0160

FAX 0776-66-0161

印刷所 有限会社 竹内印刷